

豪雨被災地の廃家電

平林金属

泥で汚れた家電製品が、じつと再生を待つ。

リサイクル業の平林金属(岡山市北区下中野)が、家電の再資源化を手掛けるリサイクルファーム御津(同御津高津)。回収品の保管場所には今も、荷札に赤字で「災害品」と書き込まれたコンテナが交じる。昨夏の西日本豪雨の被災地から集められた廃家電だ。災害発生直後に結成した回収部隊が真っ先に駆け付けたのは、浸水被害の激しかった倉敷市真備町地区だった。災害ごみ



再資源化作業続く



リサイクルファーム御津の回収品に交じる被災家電のコンテナ

の集積場には、食べ物が入ったままの冷蔵庫や衣類の詰まった洗濯機が水で内部を洗ったことでも

ふれ、なおも続々と運び込まれてきた。当時は断

臭に耐えながら手作業で中身をかき出し、種

類ごとに仕分けて御津などの処理拠点へとピストン輸送した。

中四国各地の被災地にも出向き、空き地やグラウンドに積み上がった廃家電の山を撤去

した。その数はテレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機の4品目だけで1万4千台に上る。家電量販店を介さず、同社が直接回収するのには異例の対応。大規模な変形するなどは、フロンガスの回収が浸水しながらも、国体など全国4冠を達成。主力選手は6月の世界選手権(チェコ・プラハ)に出場し、2000年以来となる日本の準優勝に貢献した。



豪雨直後に倉敷市真備町地区で集められた中身が入ったままの冷蔵庫=昨年7月

他にも自宅が被災し、社宅で避難生活を送る社員もいる。「忘れてはいけない出来事だ」と平林社長。被災地の復興を信じて、今もなお被災した家電を再資源化する仕事に当たっている。

(山本友志)